

大村市におけるゴールデンイーグルビジョンと今後の展開

長崎大学大学院 学生会員 ○久井 英行 長崎大学大学院 学生会員 今岡 芳子
長崎大学大学院 正会員 後藤恵之輔

1. はじめに

大村市は、長崎県のほぼ中央部に位置し、長崎・佐世保両市の中間距離にある。2004 年現在、人口は 88,693 人で年間に人口が約 1,000 人ずつ増加している成長期の都市である¹⁾。しかし、大村市は都市としての機能を十分に発揮しているとは言えない。このことから都市の再生が重要な課題となっている。

現在、大村市では、1982 年の「ゴールデンイーグルビジョン」(新基本構想)を元にした都市計画域マスタープランを作成中である。

そこで、本研究では、都市計画域マスタープランの原型となるゴールデンイーグルビジョン(新基本構想)の内容と、大村市の今後の展開を検討したものである。

2. ゴールデンイーグルビジョンについて

2.1 ゴールデンイーグルビジョンの概要

ゴールデンイーグルビジョン(新基本構想)は、1982 年に 1971 年策定の「基本構想」を踏まえて作成された都市計画域マスタープランである。作成当時、大村市は空港を核とした新しい交通のネットワークの整備が進むなかで、都市機能を考える重大な転機を迎えていた。そのため、マスタープランの名称を、空港を頭とした大村市の景観が、大きく翼を広げて飛び立とうとする鳥の形(図 - 1 参照)から名づけ、将来平和的で温かな大村市と市民が、21 世紀へ向けて、外界へ眼を向け、大きく羽ばたくことへの期待も込められた。

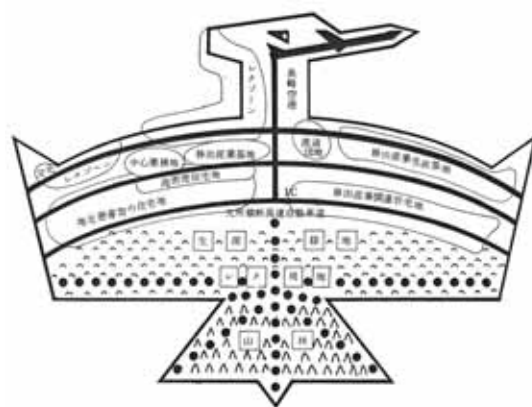


図 - 1 ゴールデンイーグルビジョンの都市像

このゴールデンイーグルビジョンでは 4 つの新しい都市像を目指している。図 - 2 に基本構想から変更した都市像を示す。

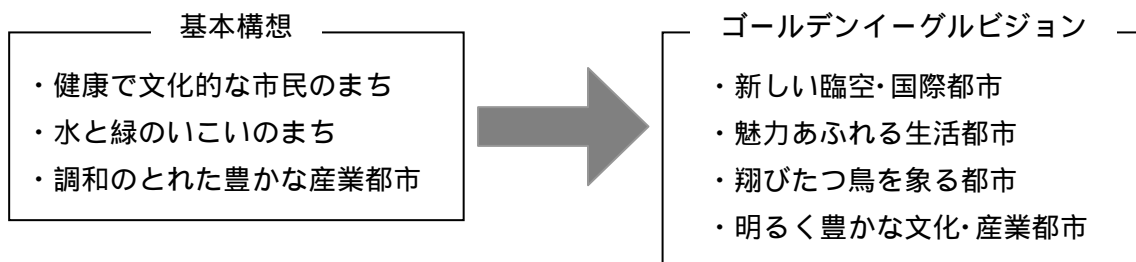


図 - 2 都市像の変更

2.2 ゴールデンイーグルビジョンにおける長所と短所

ゴールデンイーグルビジョンにおける長所と短所を挙げると、次のとおりである。

長所：ゴールデンイーグルビジョン作成の約 10 年前に作られた基本構想で掲げられた都市像を、時代の流れと共に変えた。調査・分析・歴史など様々な情報を処理し、大村市に適した計画を行ったことなどが挙げられる。

短所：空港を核とした新しい交通ネットワークの整備を行い、新しい臨空・国際都市という都市像を掲げていたが実現には至ってない。また、一般市民の意見などがあまり入っていないことなどが挙げられる。

3. 新基本構想における各分野の内容と問題点

3.1 都市基盤

大村市の市街地(用途地域)は人口規模に対して広く、土地利用の低下を招いていた。そこで、大村市の市街地を中心に大村市発展の原動力として利用するゾーン「外への展開ゾーン」と、大村市の都市としてのまとまりを計るためのゾーン「内への充実ゾーン」とに分け、それぞれの性格に応じた利用を図っている。問題点としては、軍用地跡を中心とする一帯の急速な市街化によって生じた市街地の低密度利用ゾーンの拡大、土地利用の要である中心市街地の中心性の相対的低下、市街地の土地利用における性格の不安定化(用途混合化)、中心市街地より南側のゾーンにおける土地利用の相対的低下などが挙げられる。

3.2 生活環境

快適な環境をつくるためには、何よりもそこに住む市民にとって住みよい魅力ある都市施設、生活環境が備わっている必要がある。とりわけ、市民に身近な住宅、都市公園、上下水道、清掃施設、公安防止対策、福祉施設、衛生医療施設、教育文化施設、防災救急施設等のフィジカルな生活基盤が整備されていなければならないため、ゴールデンイーグルビジョンではこの点を重要視して計画された。

しかし、上下水道整備の問題、道路の整備、バス交通の路線問題、自動車数の増加への対策などの問題点が残し、特に交通に関して言えば、日本の最西端に位置した長崎空港があるが、地理的にも恵まれているとは言えず、長崎空港、九州横断自動車道を核とした交通体系の確立と大村市、諫早市等の県中央地域の開発を考える必要があったと言える。

3.3 福祉

ゴールデンイーグルビジョンでは、まず過去の福祉における理念を検討している。過去の福祉には3つの否定的傾向があった。第1は、社会的な強者と弱者とを不連続なものとして捉えることがあった。第2は、福祉対象者を社会の不健康部分として空間的に隔離するという姥捨山の施策が取られた。第3は、福祉が保護に傾き過ぎて、人間が本来持っている自活、自立、自動の精神を摘み取り、甘えやたかりの構造を形成した。このような視点から、ゴールデンイーグルビジョンでは、児童・母子福祉、老人福祉、心身障害者福祉、低所得層対策、保健衛生医療など、これらのものを中心に計画されている。しかし、適正水準をどこに設定するか、医療における安心感などの問題点がある。

3.4 産業と経済

ゴールデンイーグルビジョンの作成当初、大村市の駆動力は産業と経済であると考えられており、農林水産業、工業、商業、レジャーとサービス業の大きく4つの分野に分け、これらを中心に計画された。その中でも製造業が重要と考えられ、新産業時代として考えられていたエレクトロニクス、新素材産業、メカトロニクス、遺伝子工学等をいかに大村市に呼び込めるかが重要であると考え計画されている。問題点としては、中心商店街の発展の方向、周辺商店街の機能分化、企業精神の向上などが挙げられる。

4. おわりに

大村市は、今後も人口が増加すると考えられている。そのため都市としての役割がさらに重要となると考えられる。しかしながら、未だ都市の中心が曖昧なため、都市としての機能が十分に発揮されていない。今後作成されるマスタープランでは都市の中心を定め、都市としての機能が十分に発揮できるゾーンを新たに定めていくことが重要であると考えられる。また、新基本構想は、約20年前に作成された計画だが、その時代にも都市の中心が分からないという指摘があったにもかかわらず改善することが出来なかった。今後作成されるマスタープランでは、このようなことが起きないようにすべきであり、更に市民の意見を多く取り入れた、市民とのコミュニケーションを大事にするマスタープランの作成が重要であると考えられる。

参考文献

- 1)大村市役所ホームページ(企画調整課)：大村市のデータ、2004.5.11
- 2)大村市企画部企画課：明日に羽ばたく大村市、1982.6.4